



令和2年度 学校・家庭・地域連携総合推進事業

第1回中央地区放課後支援者研修会

2020年12月15日 in 秋田県生涯学習センター

今年度の標記研修会が、中央地区各市町村から放課後子ども教室・家庭教育支援チーム関係者、放課後児童クラブ関係者、市町村行政職員等70名余りが参加して開催されました。



講話 『支援の必要な子どもの理解と支援の工夫』

講師 秋田県立支援学校天王みどり学園 教諭(兼)教育専門監 新目 敏子 先生

開会行事に続いて行われた最初の研修は、天王みどり学園教諭(兼)教育専門監の新目敏子先生による『支援の必要な子どもの理解と支援の工夫』と題した講話でした。

新目先生からは、特別支援教育の動向や理念、発達障害の特性や具体的な支援の方法、インクルーシブ教育の必要性等について、綿密なプレゼンテーション資料を基に分かりやすく講話していただきました。

参加者からは質問や感想が積極的に出され、特別支援教育における問題意識が、放課後支援にとっても喫緊の課題であることを痛感しました。



講師の新目敏子先生

参加者の感想(研修会アンケートから)

- ◇放課後子ども教室で、どう対応したらよいか悩む子どもが何名かいるが、その子どもたちへの対応の仕方について非常に勉強になった。
- ◇大変勉強になる話だった。すべてをすぐに実践していくことは難しいかもしれないが、少しずつでも取り組んでいきたい。私自身も意識を変えていかなければいけないことを強く思った。
- ◇障害があるなしに関わらず、子どもの話を冷静に聞いて、理解して、ほめてあげることを心掛けていこうと思う。
- ◇障害児と健常児の接し方で、学校の方でも障害児教育をしていることは知らなかった。県全体でもっと広く取り上げてもらい、学校とのコミュニケーションを取って、子どもたちの笑顔につなげていきたい。
- ◇現場で必ず実施していきたいと思った。インクルーシブ教育システムはずっと昔から望んでいるものだ。障害のある子どもばかりではなく、周囲の人の意識がよい方向にいく世の中になると思う。



グループ協議 テーマ：『子ども・保護者の対応や支援に関する情報交換』

研修会後半は、参加者が3～4人のグループに分かれ、『連携』をキーワードに、情報交換と協議を行いました。市町村ごとに放課後支援の取り組み方や、それに関わる参加者の立場は違うものの、参加者たちは情報や日頃の悩みを共有し合い、熱心に話し合いを進めていました。

放課後支援充実の必要性を再認識させられるとともに、参加者の指導技術の向上と、日頃接している子どもたちへの理解をより深めることのできる研修の機会になりました。



参加者の感想(研修会アンケートから)

- ◇様々な意見交換をする中で、幼保・小学校・児童クラブの情報共有が不足していると感じた。それが分かっただけでもよかった。
- ◇他市町村の情報が得られた。連携をどうつづけていくのか、問題もあるが、きっかけ次第で何とかかなりそうだ。
- ◇各地域の施設の事情がとても参考になった。よいところを真似していきたい。
- ◇こども園や小学校、地域との連携を大切にしていかなければならないと感じた。
- ◇テーマに限らず、自分の悩んでいることや他のクラブの日常など、時間いっぱい情報交換ができてよかった。
- ◇立場の違った方々と情報交換ができ、話を聞いてもらえただけで、ありがたい時間になった。

令和2年度 障害者の生涯学習支援モデル事業

第2回地域連携コンソーシアム開催

2020年12月22日
秋田県生涯学習センター

今年度第2回目の『地域連携コンソーシアム』が開催されました。この会議は、文部科学省の委託により、秋田県地域連携コンソーシアム設置要綱に基づき、26名の委員によって組織され、昨年9月1日に第1回目の会議を開催しました。その際、委員の互選により秋田大学教育大学院教育学研究科藤井慶博教授が委員長に、同大学院教育学研究科原義彦教授が副委員長に指名されています。

第2回目となる今回は、文部科学省による行政説明、秋田大学の取組についての事業報告の他、委員相互によるグループ協議を行いました。

《地域連携コンソーシアムについて》

秋田県では、障害の有無に関わらず、誰もが互いに尊重し合う共生社会の実現に向け、また、学校卒業後の障害者の学びの場が更に拡充し持続的になることを目的として、平成30年度から「障害者の生涯学習支援モデル事業」を実施しています。

今年度より、「障害者の生涯学習」の推進に向けて、各関係機関が互いの役割等を明確にし、情報共有を図るため「地域連携コンソーシアム」を立ち上げており、第1回目を9月に、第2回目を12月に開催しています。(美の国あきたネットに掲載)

行政説明

『学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践事業』について

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室 障害者学習支援第二係 係長 井口 啓太郎 氏

事業報告

『秋田大学における障害者の生涯学習モデル講座の取組』について

秋田県教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進班 社会教育主事 小川 成樹

グループ協議

『障害者が地域の学びの場に主体的に参加できる 持続可能な地域にするために、関係機関ができることは』

《グループ協議の様子》



グループ協議で出された主な意見や提言〈要約・抜粋〉

- ◇事業を継続していくためには人材の育成や活用が課題であり、若い世代の人材育成については学校教育段階からボランティアの育成等にも関わっていったらよい。
- ◇人と人とのつながりや人が集える居心地のよい場づくりが重要である。
- ◇地域には様々な人材がいるが、その人材をうまく発掘できなかったり、うまく連携ができていなかったりしていることが大きな課題である。
- ◇大切なのは目標共有であり、地域ごとに目標を共有することで持続可能な地域になっていくのではないかと。
- ◇高校生ボランティアが増えてきてありがたい。ボランティアの意識を高めるには、ボランティアも一緒に活動に参加して楽しむという意識改革を図れば、楽しんで参加できるようになるのではないかと。
- ◇事業の様子の写真や動画を YouTube で配信して情報提供するという取組を進めている事業所がある。
- ◇講座等のプログラムの企画に障害者の方々が加わるなど、障害者の方々が主役になって活躍できるような場をつくっていく必要がある。
- ◇障害者と健常者が交流するためには、公民館が一つの重要な施設になる。そういったときには特別支援学校在学中から入り口をつくり関係をつくっていくことが必要である。
- ◇地域人材を活用していくことや、出前講座等を含めて既存の講座をうまく活用していくことで、持続可能な取組につながっていくのではないかと。
- ◇そこに行くとか何かしなければいけないのではなくて、何をしても、または何もしなくてもよいという場所、そこに行けば誰かが居るといふ、持続可能な視点からの居場所づくりが肝要である。

第2回地域連携コンソーシアムの会議の議事録を、秋田県公式ウェブサイト『美の国あきたネット』に掲載しています。右のQRコードからアクセスできます。

